

韓国

前進する古くて若い国



体験記

8月19日(火)

8月24日(日)

ふるさと担い手育成事業の一つとして取り組んでいる「日韓友好TYS少年の船」に、今年も浅田小、明倫小、三隅中より11名の児童・生徒の皆さんが派遣されました。言葉や生活習慣の違う異国の地での体験は、子どもたちにもこの上ないすばらしい宝物を与えてくれました。ここにその貴重な体験を皆さんにご紹介いたします。

「友だちいっぱい」

浅田小6年 山崎謙一郎

僕は、出発前は、不安でいっぱいでした。友達のこと、食事のこといろいろ考えているうちにとうとう出発のときが来ました。でも船の中でいっしょに行動しているうちに、すぐに友達と仲よくなることができました。韓国の人との交流会では、みんなとても笑顔がすてきで名刺交換や歌など楽しく交流できました。

帰りの船の中でみんなが僕のTシャツにメッセージを書いてくれました。交流するうちに僕は韓国と日本の人々がもっとなかよくできるよう、かけ橋になりたいと思いました。

「韓国で学んだこと」

浅田小6年 藤村しのぶ

「TYS少年の船」に参加しているいろいろな人と交流し、韓国の人達と友達になれたことが、よかったです。また、言葉は通じなくても、心が通じていれば、仲よく助け合うことができます。泊六日の旅で韓国の多くのことが学べてよかったです。

これからは、学んだことを学校生活などで生かしていきたいと思っています。また韓国と日本が今以上の交流を深めていってほしいです。



「隣の国」

明倫小6年 大草快貴

手が届きそうな程近い国、韓国。足を一歩踏み入れた時、僕は街中に漢字があふれ、建物や人の感じもよく似ているので、つい「こんにちは。」と挨拶をし、思わず「ここは韓国だった。」とあわててしまいました。挨拶程度しかできなかった僕は、動作で韓国の人と話してみました。自分の気持ちや伝わった時のうれしさは格別でした。ほんの一刻にしかすぎない事ですが、この交流会を通して、おたがいの言葉や習慣や文化を理解し合う事の大切さを学ぶ事ができました。

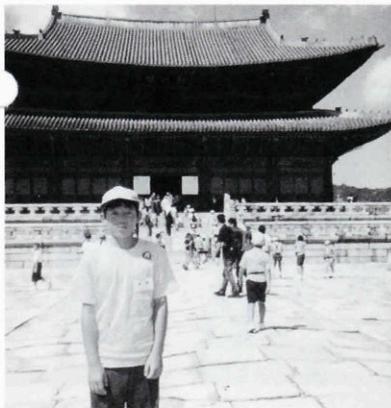
「カムサハムニダ。」

「すべてにカムサハムニダ」

明倫小6年 橋本京子

蔚山国民学校の人たちとの交流会は、私をより一歩韓国へ近づけました。韓国の美しい踊りに感動。私達の歌や踊りにも韓国の人は大きな拍手をしてくれ、輪が一つに、心が一つになりました。私はホッとしました。

名刺交換では、韓国の人が積極的にリードしてくれ、気軽に交換できました。言葉はいろいろな心を開き大きく開ければみんな友達。何事にも消極的な私でしたが、私の中にある実がはじけ、新しい自分が見つけれられた旅。



「世界はひとつ」

明倫小6年 橋本佳子

韓国へ行けるー不安よりも期待の方が高まりました。班の人ともすぐ仲よくなり友達もたくさんできました。フェリー乗り場には、ハングル文字の看板が並び外国だと実感しました。一番心に残ったのはやはり交流会です。コミュニケーションをとるのは言葉は通じなくとも手や体で表現すれば十分です。国は違っても心は伝わります。

自分の体で、韓国の文化や歴史を学び知ることができ、たくさんの人とふれあえました。これを機会に、何事にも挑戦していきたいと思っています。

「韓国体験記」

明倫小6年 椋木勇氣

ぼくは、このTYS少年の船に参加して、大変よかったです。それぞれがう国の人とふれあうのですから、それは不安でした。船に乗っている間いろいろな考えたりしました。

でも、この少年の船でできた友達や先生方のはげましによって、韓国の人々と、友達になることができましたので、とてもうれ